

家庭教育支援の推進に関する提言書

令和7年3月26日

裾野市社会教育委員会

1. はじめに

従来の家庭教育支援の手法では、本来支援を必要とする家庭に十分な支援が届いていないという課題が指摘されています。この課題を解決するためには、より身近な場で、住民同士が気軽に交流できる機会を増やし、困った時に助け合える関係性を構築することが重要です。

2. 提言内容

裾野市発祥で全国にも広がりを見せる「何にもしない合宿」を市内全域に広げることで、住民同士の交流を促進し、地域における共育の基盤を築くことを提言します。

「何にもしない合宿」とは、企画や準備がなく、参加者が自由に過ごし、互いの触れ合いを通じて、地域コミュニティを活性化する取り組みです。この活動を通じて、子どもたちは年齢や学校を超えた仲間と出会い、大人たちは子育ての悩みを共有し互いを支え合う関係を築くことができます。

提言の目的

- **住民同士のつながりを深める:** 気軽に交流できる場を提供することで、住民同士が顔見知りになり、地域への愛着を深めます。
- **子育ての孤立を防ぐ:** 子育て中の悩みを共有し互いを支え合うことで、孤立感を軽減します。

3. 実現に向けた取り組み

- **多様な主体との連携:** 自治会、PTA、地域団体、学校など、多様な主体と連携し、合宿の企画・運営を支援する。
- **実施場所の確保:** 自治会の集会所、学校体育館、コミュニティセンターなど、利用可能な施設の情報を収集し、実施場所の確保を支援する。
- **活動の周知:** 広報誌やウェブサイト、SNSなどで積極的に情報を発信し、地域住民への認知度を高める。
- **保険費用の支援:** 参加者の安全確保のため、団体保険への加入を支援したり、保険料を補助したりするなど、必要な保険費用に関する支援を行う。

4. 期待される効果

- **家庭教育支援の充実:** 保護者と地域住民とのつながりを深めることで、困った時に助け合える関係性が築かれる。
- **子育て支援の強化:** 子育て中の親同士が互いを支え合い、子育ての悩みを相談し合える環境が生まれることで、子育ての負担を軽減する。
- **地域コミュニティの活性化:** 地域住民同士の交流が深まり、地域で子育てに関する情報交換が活発になるなど、地域の活性化につながる。
- **子どもの健やかな成長:** 子どもたちが年齢や学校を超えた仲間と出会い、地域のイベントに参加する機会が増えることで、社会性や協調性が育まれる。

5. まとめ

「何にもしない合宿」は、従来の家庭教育支援の枠を超え、地域全体で子どもたちを育てていくための新たな取り組みです。この提言が、より良い地域社会の実現につながることを期待します。

市内の実践事例

地区	主催団体	開始時期	会場
東地区	東地区おやじの会 東地区青少年育成連絡会 カンガルー子育てネット 裾野市青年団体連絡協議会	平成 24 年 9 月	東小体育館 東地区コミュニティセンター
青葉台区	青葉台区青年会	令和 5 年 5 月	青葉台公民館
佐野上宿区 佐野本宿区 佐野若狭区	佐野一子ども会	令和 6 年 4 月	佐野一集会所
深良地区	深良地区学校運営協議会 深良小 PTA 深良中 PTA	令和 6 年 6 月	深良小体育館 深良地区コミュニティセンター
千福が丘区	千福が丘自治会	令和 6 年 8 月	千福が丘自治会館

Lo-bee

市民活動情報誌 “ロビー”

ロビーは、あなたがまだ見ぬ、ヒト・コト・モノとの新たな関係を創ります。

2024.10 第6号



表紙 上原区の皆さん

1・2ページ 自治探訪

笑顔いっぱいの皆さん。平日昼間、集会所での防災説明会的一幕です。防災会の大庭境時けいじさんが用意した大雨時の区内の写真（右上）を見て、対応を話し合います。集会所の利用から生まれるものは…。

3ページ 団体探訪……裾野市東地区おやじの会

4ページ 企業探訪……株式会社 金ペン堂

5ページ ぼくらの活動ノート……富岡中学校ダンス同好会
読者プレゼント

6ページ 裾野市市民活動センターへようこそ

裏表紙 各区の人口情報など

裾野市東地区おやじの会

平成 10 年発足。東小学校 PTA の傘下で活動をスタート。現在は社会教育を担う地域づくり団体として活動中。会員は保護者や地域住民など。受賞歴は、平成 30 年度あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞。第 8 回ふるさと貢献賞。平成 30 年度裾野市東地区区長会表彰。令和 5 年度ふじさんっこ応援大賞の大賞など多数。



ここに来ればみんな仲間！

顔を合わせる日常の関係づくりが地域づくりの土台をつくる

言い出しっぺ実行委員長方式

やりたいことを形にする！言い出した人が実行委員長となりみんなに呼び掛け、実現させる。実現に向けて邪魔をしないのが東地区おやじの会の流儀です。年間 30 以上の事業を進めているというのには驚きです。裾野を代表する地域づくり団体として活動の幅を広げています。

月 1 回の“何にもしない合宿”

代表的な事業はお泊り会の“何にもしない合宿”です。地域をつなぐツールとして平成 24 年 9 月にスタートし、今年 10 月で 89 回を迎えました。東小体

育館で月 1 回、東地区の小・中学生、高校生から大人まで、毎回 100 人規模の地域住民らが顔を合わせています。ボール遊びをしたり、鬼ごっこをしたり、9 時の消灯時間まで、過ごし方は全て自由。とにかく、子どもも大人も楽しそうです。

言い出しっぺは、現会長の小田圭介さん。「小学生の時に地元が楽しいという体験をして、地域と関わり続けたいという中学生を生み出し、地域を担う人づくりを目標として始めた。イメージしていた将来像の光景が広がっている」と語ります。

会のメンバーとして参加する柴田輝伸^{てるのぶ}さん（24）は第 1 回

の参加者で約 3 年前に消防東分団に入団しました。「地元を住みやすく、よりよくするためのこの活動に関わり続けたい」と話します。同じく増島莉久^{りく}さん（21）も第 1 回の参加者。当時、参加できるのは小学生までだったそうですが、その後も参加し続けたいという増島さんの思いが中学生の参加を認めるきっかけになりました。増島さんは「地元が好き。当時わくわくしていたこの空気感はあるところと変わらない」と笑顔を見せます。

同会は、自分たちと地域にとってのよりよいが重なる領域で活動する団体として、地域づくりの可能性を迫ります。



自分たちで過ごし方を考えて、思い思いに楽しむ子どもたち

裾野発 “何にもしない合宿”

毎月 1 回、土曜日に東小学校体育館（東地区コミュニティセンター）で開催。各家庭で夕食と入浴を済ませて 18：30 以降にそれぞれのタイミングで集合。21：00 消灯。翌朝 7：30 までに解散（帰宅）。問合せ先：090-1733-1382（小田圭介）

* 裾野市内では、学校単位や子ども会、自治会など 5 か所で実施。全国 30 か所以上に広がりを見せている。